

## 第 61 回けんこう教室開催レポート

12月15日(土)、大山隆史消化器外科副部長によるけんこう教室「見逃されやすい消化器外科疾患の初期症状」を開催し、89名が来場しました。



大山 隆史 消化器外科副部長

日常生活で「足の付け根にふくらみがある」、「みぞおちやわき腹に違和感がある」、「胸やけがひどい」、「食が細くなった」など、何となく気になる症状を感じたことはないでしょうか。こうした症状に隠れた病気から、今回は消化器外科を受診する方に多いものを4つご紹介しました。

ひとつめはそけいヘルニア(脱腸)です。初期には痛みはなく、特に変化のないふくらみが股の部分にできます。それが常に膨らんでいたり、大きくなったり、違和感や軽い痛みが出始めたら注意信号です。さらに痛みが強くなったり、ふくらみが硬くなり腫れる、変色するなどしたら要注意！受診しましょう。脱腸した部分が腐り、腹膜炎を引き起こすことがあります。腹膜炎は急激に悪化し、1~2日放っておくと意識を失うようなこともあります。

また、みぞおちから右わき腹あたりの違和感を訴える方に多いのが胆石症です。胆嚢に石ができる病気です。石が胆嚢の中にあるときはいいのですが、胆嚢の出口付近や胆嚢から出て狭い胆道にあるときには、動けなくなるほどの激痛が走ります。また、違和感が別の場所に出ることもあります。胆石症の治療には腹腔鏡手術が必要になりますが、通常は2~5日で退院できます。違和感を覚えたらず、受診して検査を受けましょう。

胸やけ、むかむか感には、逆流性食道炎が潜んでいることがあります。症状が中等度に進むと胸痛、寝ている間に咳が止まらない、夜中に何度も起きるなどの症状が出ます。そのときは受診しましょう。重症化すると胃袋が食道の方に引っ張られ、食道裂孔ヘルニア(胃袋が横隔膜の上にぼっこりとせり出してしまう)を併発することがあり、そうなると手術が必要になります。

食が細くなった場合には、消化器がん(食道がん、胃がん)が隠れていることがあります。これらは早期には無症状のことが多いので、2年に1回程度、定期的な検査をオススメします。

検査には内視鏡を使いますが、経鼻内視鏡だと苦痛が少なく比較的オエツとなりません。検査中に話もできます。また、検査でがんが見つかった場合には、早ければ(小さければ)、経口内視鏡(口からの内視鏡)で治療することができます。3~7日程度で退院ができ、身体への負担も小さくて済みます。両方とも当院で可能です。がんは今の時代、早期発見できれば治ります。定期的な検査を心がけ、症状が軽い段階での治療をおすすめします。

講演後に、小河 裕樹 理学療法士による、「テレビを見ながらでもできる体操」をご紹介しました。座ったままで、本当にテレビを見ながらでも手軽にできそうです。ご自宅で実践してみてください。

○次回は、[2019年1月19日\(土\)10:30~11:30](#)に

第62回けんこう教室 (当院研究棟2F 大会議室)

「~手や肘の痛みで困っていませんか~ 痛みの原因を正しく知ろう！」

中山 政憲 整形外科医長、国際医療福祉大学 医学部助教 を予定しています。